

14日(日)午後6時から沖繩コロンビアセンター劇場で、琉球新報社と沖繩ベートルヴェン協会共催により、ベートルヴェンの交響曲第九番「合唱付」が指揮大勝秀也氏、ソラノ黒島舞季子氏、アルト金城泰子氏、テノール泉恵得氏、バリト翁長剛氏、そして沖繩交響楽団と第九合唱団によって演奏されます。

ここで、ベートルヴェンの最後の交響曲に秘められた彼の思いや姿を紹介したいと思います。

第1楽章で、運命「3連打」に翻弄されながらも、愛「2連打」の力で耐え、幾多の難関を突破した過去を回想する姿が描かれています。

第2楽章では、ひたすら、音楽の独創の世界をわしやらの、まっしぐらに歩む姿(ティンパニ)が描かれています。

第3楽章は、精神の病で亡くなったヨゼフ・ネと夢の世界、さらには夢のまた夢、すなわち、天

2010年2月7日

14日にベートルヴェン「第九」演奏会

第3楽章は音楽芸術の至宝



国で愛を語らう姿が描かれています。最後に、ヨゼフ・ネの絶叫(トランペット)によって現実の世界に戻り、彼女の名を呼びながら(第2バリエーション)探し回る情景が描かれ、ヨゼフ・ネが恋人であることを訴えています。この楽章は音楽芸術の至宝であるど、私は評価しています。

第4楽章で、元気いっばいにシラーの「人類愛への賛歌」を歌い上げ、私たちが未来永劫仲良く、平和な生活を営むことを希望します。そして最後に「幸福」のシグナルである「4連打」を放って終曲となります。

なお、演奏の前に「第九交響曲はベートルヴェンの集大成」の演題で私が講演を行います。

ぜひご来場ください。入場料は大人2千円、学生千円。問い合わせ先は沖繩ベートルヴェン協会 098(895)8814。

(沖繩ベートルヴェン協会・田幸正邦)